



3. 参加学生・大学院生のレポートから

松田, 毅

(Citation)

住民参加による被災地のアスベスト飛散調査への参加・協力 : 調査報告書:6-6

(Issue Date)

2013-03

(Resource Type)

research report

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81009564>



3. 参加学生・大学院生のレポートから

■学生・大学院生のレポート

今回は通常の授業の枠を超えた規模の調査であることから、参加者には原則として8000字程度のレポートの提出を求めた。

まず松田が、授業終了後の8月半ばに提出されたレポートについて、それぞれ補足すべき点や修正要求のコメントを加えて、それを各自に連絡した上で、10月の始めに再提出することを求めた。その結果、以下のように10人から提出があった。この報告書では、その内容から、目次のように、それらを五つの部分に分けて順に掲載することにした。

なお、表記については、松田が統一している。

(1) アスベストリスクと震災被害

劉婷「東大震災被災地の復興——リスク問題と交通問題」

(2) 防災と危機管理

土屋邦子「災害と医療」

勝部尚樹「学校防災の課題——大川小学校の悲劇から」

(3) 復興とコミュニティ

金平麻友子「復興とまちづくりにおける地域コミュニティの役割」

吉田真帆「被災地の復興をどのように進めていくか。

被災者の目線、考え方、外部からの関わり方」

芳村雅世「「居場所」を見つけるために」

(4) 被害の深層

奥堀亜紀子「被災地の墓地復興の背後にある悲しみと希望」

奥野大貴「被害者の声（環状島）」

内と外におけるトラウマの有り様～環状島モデルを参考に」

本林良章「他者の痛みと想像力—津波・震災・アスベスト」

(5) 市民活動：ボランティアとNPO

メリマ・ドゥラコヴィッチ

“NPO’ role in researching asbestos and their connection and contribution to public”